

心のつながりシート



日本介助犬協会の方との交流を通して

障害のある方の生活を理解する



令和3年11月13日、土曜公開授業で3年生を対象とした総合的な学習の時間に、愛知県の社会福祉法人日本介助犬協会の方から、手や足に障害のある方の生活動作を手助けする介助犬について学びました。

介助犬は令和3年10月1日現在、全国に57頭いるそうです。手足が不自由な方のお手伝いをする犬として、扉を閉める、冷蔵庫を開けて飲み物を持ってくる、靴下を脱がしてあげるなどのことができます。

その様子をオンラインで紹介いただき、生徒からの質問にも答えていただきました。特に印象に残ったのは、「介助犬は、働かされているのではない。喜んでもらえることが嬉しいと思っている。」という職員の方の言葉です。一連の手助けは、犬の自主的な行動なのだそうです。

ボランティアの方に愛情を注いで育ててもらった後に、訓練センターでトレーニングを始めます。1年ぐらいかかります。



介助犬はどのように育てられるのですか。

<授業に参加した生徒の声>

介助犬のできることの多さや能力の高さを知りました。特に、距離の離れたところから携帯を持ってくる際の器用さに感動しました。今後の生活の中で、車椅子の方がいたときに心配りをしていきたいです。また、家族と今日の学びを話していきたいです。

<地域の方より寄せられた声>

障害者の方の理解していくことはとても大切な学びです。オンラインにより、介助犬の様子を知り、生徒たちはこのテーマを身近に感じて考えることができたと思います。

学校名：杉並区立向陽中学校